

<b>【学校教育目標】</b>	<b>【本年度の重点目標】</b>
確かな学力と豊かな心を持ち、地域を愛するたくましい生徒の育成	○魅力ある学校づくり(不登校生10名以下) ○学ぶ意欲の向上

自己評価は4段階で評価しています。(4:そう思う 3:どちらかといえばそう思う 2:どちらかというと思わない 1:そう思わない) ※数値(上段:12月 下段:7月)

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学習指導	授業内容の改善	日常的に学力向上を意識しながら教科の授業に取り組んでいるか 〈結果〉 年間を通じて、計画的に校内研修を実施し、一人1回の授業研修や生徒の授業アンケートをもとにした授業改善を行うことができた。	3.5 ↑ 3.6 高い自己評価です。全ての教師が学力向上を常に意識し、日々の授業改善に取り組んでいる事がわかります。	○学力向上推進拠点校事業の終了後、新たな初年度として様々な課題が見えてきた。その課題の改善のために計画的に主題研修や一般研修を推進し、学力向上プランの視点2学力を支える家庭との連携を含めた取組の徹底を行う。研究推進委員会及び学力向上検証委員会を中心とした各種委員会が連携・協働し、PDCAサイクルに基づく具体的な取組を数値化に基づき実行していく。 ○それぞれの委員会が年間計画を立案し、着実に実施・評価・改善を図っていく。特に、学力向上検証改善サイクルのロードマップをもとにし、DOの徹底化と評価の見取りからの改善策を迅速に行う。 ○指導と評価の一体化を意識した授業改善が生徒・保護者に見える化できるように校内研修を実施する。 ○学力のCD層の生徒に対し、鍛ほめの方途を取り入れたそれぞれの個の実態に応じたマンツーマンの支援をもとにした自学ノートの取組を推進し、CD層の家庭学習の習慣化を目指す。
		モジュール学習で10分間生徒がしっかりと取り組めるように指導しているか 〈結果〉 年度当初に目的を共有し、年度途中にも取組評価を共有したことで、全校生徒がしっかりと取り組むことができています。次年度はICTを活用したより効果のある取組につなげる必要がある。	3.1 ↑ 3.2 モジュールの成果が生徒の学力にどのようになっているか明らかにすることが、生徒と同様に教師の意欲の向上ややりがいにつながると思う。	
授業で理由や根拠をもとに自分の考えを表現する(かく)活動があるか 〈結果〉 全教科で授業のグランドデザインをもとに思考活動(かく活動)の充実を図る授業改善に取り組んだ。しかし、授業規律のスタンダードを徹底できなかった。	3.1 ↑ 2.6 2.6から0.5ポイントも上がる努力をされたことに敬意を表します。小学校6年間を加えて、9年間で思考力と表現力を育てたいと思います。次年度でも書く活動を取り入れた授業を期待しています。			
授業では一単位時間の授業の流れ(「めあて」「見通し」「思考活動」「まとめ」「振り返り」を行っているか 〈結果〉 一人1回の授業研修や授業参観週間を通して、全教員が意識して授業改善に取り組むことができた。しかし、異教科グループ協議の時間設定ができず、協議会を実施できていない教科があった。	3.2 ↑ 3.4 生徒の一人一人が自分でも「わかった」「できた」というような達成感を数多くもてるような授業づくりを期待しています。			
学習指導	家庭学習の習慣化	各教科で課題(特に週末)を与えることができたか 〈結果〉 教科によっては課題を課する事ができていないことがあったものの、教科の課題内容の量を調整するなど、生徒の状況に応じた課題を与える工夫をした。	2.5 ↑ 2.2 学力向上に向け、週末課題の与え方など量の調整を継続して取り組んで欲しいです。	
		家庭学習の方法や取り組み方、家庭学習に向かう姿勢などを指導したか 〈結果〉 考査前学習計画表に保護者からのコメント欄を設けたり、考査前にはノーメディアチャレンジ週間を設定するなど家庭に啓発した取組をおこなった。	3.2 ↑ 2.9 家庭学習の習慣化の取組を小学校でも始めています。小中で連携をしていきたいと思ひます。家庭学習の充実に向けて指導の徹底を次年度も続けて欲しいです。	
総合所見		昨年度までの学力向上推進拠点校事業から、教職員の授業改善に対する意欲の向上がみられ、互い授業を気兼ねなく見せ合い、生徒の反応から指導の手立てを意見交流する場面を目にするようになった。昨年度までの研究推進委員会・学力向上検証委員会を中心とした校内研修や授業参観週間などを通して、職員の指導力の向上に対する職員の意識の定着が図られた。今後も、主幹教諭をはじめとすミドルリーダーや若手教員の人材育成を意図した組織づくりを通して、学校教育目標の具現化に向けた協働体制を整えていく。また、教育課程のカリキュラムマネジメントを通して、教育活動の一貫性や関連化を図るようにする。さらには、新たな研究主題のもと協働体制作りを組織的にを行い、より効果のある取組を展開していく。		

生徒指導	落ち着いた学校づくり	生徒がチャイム1分前着席を守る指導を行っているか 〈結果〉 チャイム1分前着席はできているものの、発言者の方を向いて話を聞くといった「学習規律のスタンダード」の徹底が不十分であった。今後、その徹底に力を入れる必要がある。	3.2 ↑ 3.3	学習規律のスタンダードを小中で共有し、同じ方向を向いた指導を心がけたいと思います。日々、当たり前チャイム1分前着席が守れており素晴らしいと思います。先生方の指導の賜です。	○積極的な生徒指導の視点から学校行事や教育課程全体の流れを見直し、PDCAサイクルに基づいた生徒の自己指導能力を獲得できるようにする。 ○生徒会活動と連動した学習規律のスタンダードの徹底週間を実施する ○学期に1回のいじめに特化したアンケートの実施をはじめ、日常的にいじめや問題行動防止に向けた意識の高揚を図る。
		授業規律について指導を行っているか 〈結果〉 全職員での指導はもとより、生活専門委員会が全校生徒に働きかけを行うなど生徒自らの授業態度を見直す取組を行った。自分の考えを表現する指導の徹底が不十分である。	3.2 ↑ 2.9	入学説明会で中学生の授業見学をしたが、非常に落ち着いて授業に参加している様子が分かった。	
生徒指導	積極的な生徒指導	いじめについて未然防止、早期対応を行っているか 〈結果〉 いじめに関する校内研修を実施したり、年間3回の教育相談をしたりして、いじめの早期発見に努めた。またいじめ事案が発生した場合、学年職員、生徒指導委員会で組織的な対応をおこなった。	3.3 ↑ 3.1	いじめに対する認識を高め、対応マニュアルの周知をしていきましょう。	○学校内外において、生徒の挨拶などの規範意識の向上にはさらなる評価を得られた。今後は、積極的な生徒指導のさらなる推進を図り、発達段階に応じた生徒の居場所作りや生徒同士の絆作りの推進を図る。 ○新規の不登校生徒をつくらぬよう、自己肯定感を高める教育活動を実施する。 ○不登校生徒及び傾向のある生徒一人一人を全て関係機関につなぎ、多面的に支援を行う体制を構築する。
	総合所見	生徒の姿を具体的にほめているか 〈結果〉 生徒の具体的な努力の過程やその成果をみとり、評価・ほめることを通して努力できる自分や、やればできる自分への手応えを感じさせ、さらなる意欲を引き出すことが必要である。	3.2 ↑ 3.0	具体的な場면을褒めることにより、生徒に自信とやる気を育てて欲しいと思います。	
	総合所見	生徒同士の些細なトラブルを自分たちで解決できる力や日頃からの関係づくりを意図的に行う必要がある。担任は計画的、また日頃からの教育相談や生活ノートによる生徒とのやり取りをきめ細かに行うなど、生徒の様子に気を配り、信頼関係づくりをして行く必要がある。また、SNSに関するトラブルの増加から、積極的、計画的な指導が昨年度に引き続き課題となっている。今後は生徒同士の信頼関係づくりを積極的に行っていくとともに、生徒が自ら規範を意識し、主体的に規範を守ろうとするといった自己指導能力の獲得を意図的に行なっていく。また、PTAと連携した取組の実施など保護者への啓発も見通しをもって行っていく。			
職員研修	校内研修の充実	校内研修で学んだことを日常の教育実践に生かしているか 〈結果〉 主題研究を中心に、計画的な校内研修を行い、異教科でのグループ研修や全職員で授業改善に取り組むことができた。	3.0 ↑ 3.2	小学校の教師として、小中で連携した校内研修や授業研修をしたいと思う。	○各種委員会における主務者を中心に、OJTによる人材育成をおこない、学校参画意識を高めていく。 ○そのための校内研修を工夫し、自主的な研修を計画的に実施する。 ○授業改善、家庭学習やモジュール、補充学習の充実による学力向上の取組をPDCAサイクルに従って実行する。
		全教師が年1回の授業研究に取り組めたか。 〈結果〉 一人1実践の研究授業を行い、さらに2回の授業参観週間を実施した後の協議会や校内研修で振り返ることができた。	3.7 ↑ 3.0	小中で授業を公開し合い、交流を深めていきたいと思っています。 全教師に授業改善サイクルが定着しており、是非とも継続して力を入れて欲しいと思います。	
職員研修	校外研修の参加	センター研等へ積極的に参加することができたか 〈結果〉 県教育センターでの集合研修やオンライン研修で学んだ内容をそれぞれの係や組織での運営に活用する職員が増えた。	3.7 ↑ 3.4	校内研修への意欲の高まりが見られます。素晴らしいと思います。 高い自己評価の結果が出ており、先生方の研修への意欲は素晴らしいと思います。	○一人1講座以上の教育センターのキャリアアップ研修の申し込みを行う。 ○教師塾やミドルリーダー養成講座に積極的に申込を行うなど、学校の中核となる教師が新たな教育活動を創造できるようにする
	総合所見	本校は年齢構成が若く、これからの教育界を担っていく教員が多い。そのため、実践的授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上、新たなミドルリーダーの育成を計画的に行なっていく必要がある。人材育成のためには、仕事を任せた上での指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校務分掌やライフステージに応じた校外での各種研修への受講・参加を促し、その研修内容の還流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげなければならない。			